

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科3年制	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	視器の解剖生理・病理学実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1)
対 象 学 年	1年生	学 期	前期 木曜1限	教室名	703教室 7階身
担 当 教 員	三辻真由美				

実務経験と
その関連資格

視能訓練士として、眼科にて視能検査に9年間従事している

《授業科目における学習内容》

眼科外来で行われる基礎的な検査の理論、手技を学びながら患者の接遇を身につける。
実習に対する姿勢や心構えも学ぶ

《成績評価の方法と基準》

試験評価80%
平常点20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

プログラムフローチャートですすめる図解眼科検査法 湖崎克 監修 滋慶学園グループ視能訓練士養成校担当教員

《授業外における学習方法》

教科書を読み、器械の扱い、手技や測定方法の流れを把握する

《履修に当たっての留意点》

検査手技だけでなく、医療人として常に患者の気持ちに寄り添った接遇も身につけることができるように積極的に学んでください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体
第1回	授業を通じての到達目標	眼の屈折と屈折検査の種類、原理について学ぶ	視能学 フローチャート	フローチャート
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、屈折検査		
第2回	授業を通じての到達目標	屈折検査の役割・目的を言えるようになる	視能学 フローチャート	視能学、フローチャートを
	各コマにおける授業予定	屈折検査の役割について		
第3回	授業を通じての到達目標	屈折検査の適切な手技を覚える	視能学 フローチャート	視能学、フローチャートを
	各コマにおける授業予定	屈折検査の検査手順		
第	授業を通じての到達目標	屈折検査のデータの見方を言えるようになる		

<p>第4回</p>	<p>各コマにおける授業予定</p>	<p>屈折検査データの読み方</p>	<p>視能学 フローチャート</p>	<p>視能学、フローチャートを</p>
<p>第5回</p>	<p>授業を通じての到達目標</p>	<p>角膜検査の役割・目的を言えるようになる</p>	<p>視能学 フローチャート</p>	<p>視能学、フローチャートを</p>
	<p>各コマにおける授業予定</p>	<p>角膜検査の種類と役割を学ぶ</p>		

授業の方法		使用教材	授業以外での準備学習の具材
第6回	授業を通じての到達目標	角膜検査のデータを説明できる	視能学 フローチャート
	各コマにおける授業予定	角膜検査のデータの読み方や、正常値、異常値を覚える	
第7回	授業を通じての到達目標	眼圧検査の役割、目的を学ぶ	視能学 フローチャート
	各コマにおける授業予定	眼圧検査の役割について	
第8回	授業を通じての到達目標	眼圧検査の種類をいえるようになる	視能学 フローチャート
	各コマにおける授業予定	様々な眼圧検査について	
第9回	授業を通じての到達目標	瞳孔間距離測定の役割、目的を言えるようになる	視能学 フローチャート
	各コマにおける授業予定	瞳孔間距離測定について	
第10回	授業を通じての到達目標	座学内容の知識確認	配布プリント
	各コマにおける授業予定	座学での内容の確認問題を解く	
第11回	授業を通じての到達目標	実習①	フローチャート
	各コマにおける授業予定	屈折検査について班ごとに分かれて手技を定着させる	
第12回	授業を通じての到達目標	実習②	フローチャート
	各コマにおける授業予定	屈折検査、眼圧検査について班ごとに分かれて手技を定着させる	
第13回	授業を通じての到達目標	実習③	フローチャート
	各コマにおける授業予定	角膜検査について班ごとに分かれて手技を定着させる	
第14回	授業を通じての到達目標	実習④	フローチャート
	各コマにおける授業予定	角膜検査について班ごとに分かれて手技を定着させる	
第15回	授業を通じての到達目標	実習⑤	フローチャート
	各コマにおける授業予定	自身が苦手な検査機器の手技をマスターする	

読心

読心

本的な内容

読む

読む

読む

読む

読む